●チ**リ経済（スタートアップ企業が1億3,600万ドルの投資を獲得：報道）**

　１５日付当地紙「ラ・テルセラ」は、チリの新興企業が2020年に1億3,600万米ドルの投資を達成した旨報じているところ、右概要以下のとおり。

１　ラテンアメリカの民間資本投資協会（LAVCA）の統計によると、2020年、パンデミックにもかかわらず、チリの新興企業は合計1億3600万米ドルの投資を集めた。植物性食品会社であるThe Not Companyは、Fred BlackfordとBiz Stone（Twitter）の投資ビークルであるFuturePositiveから8,500万米ドルの投資を受けた。生命保険加入者向けの「bienestar con proposito」の運営企業であるBetterflyは、昨年、Albatross Capital、Grupo Prisma、Katapult Impact of Norwayなどの国内外のファンドや、JP Morgan、Endeavour、GrupoBioから1750万米ドルを調達した。このほか、昨年最も多くの資金を調達したスタートアップのトップ5は、バイオテクノロジー企業Protera（560万米ドル）、Simpli Routeロジスティクスソフトウェア（300万ドル）。フィンテックXepelin（250万米ドル）である。

２　最も多くの資金を集めた業種は、食品（総投資額の67％）、人的資源テクノロジー（13％）、フィンテック（5％）であるが、南米の主な投資はフィンテック（16億米ドル）、電子商取引（4億1400万米ドル）、プロップテック（不動産セクター（2億5700万米ドル）が占めており、やや特徴が異なる。

３　Fundacion Chileのベンチャーキャピタル部門であるChile Global VenturesのCFOのSofiaGrez氏は、ラテンアメリカ市場に目を向けた新しい外国人投資家の登場により、2019年以降投資は上昇傾向にあると述べている。その一例が、新しいアイデアに賭けるために50億米ドルをローンチさせた日本企業のソフトバンクであるという。グスマン・チリベンチャーキャピタル協会（ACVC）会長は、この数字は驚くべきことではない、投資ファンドは成長を続けてきており予測と一致している、6億2,900万人を超える市場であるラテンアメリカは、すぐ1日で実装できるより小さな官僚機構の企業で、迅速に着手できる条件を満たしているからであると説明する。メキシコやブラジルではテクノロジー企業への投資への関心が高まっているが、「グ」会長は、チリでも2020年にスタートアップに約80件の投資が行われたと述べ、パンデミックは、地元の起業家に新たな状況をもたらした要因であるという。

４　昨年、銀行にアクセスできない人々にローンを提供するフィンテックであるKreditは投資家の関心を集め、中小企業向けのデジタルファイナンスを専門とするスタートアップであるXepelinは、KayyakVenturesから投資を受けた。Frontier Car Group（FCG）のVendenosTu Auto.comは、OLXGroupと合併してOLX Autosとなり、10億米ドルの時価価値でユニコーンのレベルに達した。Webdoxは、大企業の契約業務のデジタル化を専門とするフィンテックであるが、チリの座席から立ち上がることなく、ブラジル、メキシコ、または世界の他の国に販売することができる、と彼らは言う。

５　南米地域への投資が増加した理由の中には低金利がある。また、危機の中生じた課題はデジタルトランスフォーメーションを加速させ、全ての業界に革命を引き起こし、サクセスストーリーを可視化した。Rappi、Not Company、Corner Shopは、グローバルソリューションに変貌し、この地域の起業家のアイデアにより大きな注目を集めさせた。

６　2008年以降、産業振興公社（CORFO）は投資家、アクセラレーター、さまざまな投資ファンドのネットワークを開発するためリソースを割り当ててきた。2020年1月から6月の間に、CORFOは投資ファンドに2,300万米ドルを拠出した。これは、前年同期比で10％の増加である。そのうち、73％は既に零細小規模企業に投資されている。テラサスCORFO副総裁（当館注：総裁はパラシオス経済・振興・観光大臣。同氏は前鉱業次官）は、ヘッジファンドがブラジルやメキシコからチリ市場に関心を変えてもらうことが順調に進んでいると説明する。